

令和5年度 事業計画

I 基本方針

新型コロナウイルス感染症も5月には5類とされ、収束に向かいだしたところですが、長期化したコロナ禍の影響による需要の変化、原油の高騰を筆頭とした物価の上昇など、旧来の姿への回復は望めない状況にあります。

コロナ禍において、経費削減の徹底、各種支援策等を最大限活用し、難局を乗り越えてきたところですが、コロナ収束に向け支援策等も縮小するため、更に厳しい状況となります。

令和5年度は、コロナ後の施設の在り方、この地域のコミュニティーを担う施設としての道筋を立てる重要な年となります。引き続き徹底した経費節減を図り、収入の最大化を目指し、更に収益性を高めた事業展開をいたします。

令和5年度の利用人数は、対前年予算20,635人増の292,130人、事業収入は、対前年予算145,648千円増の618,257千円とし、補助金等営業外収入を含めた経常損益は、税引前で20,229千円の黒字を計画とします。

II 具体的な取組

札幌市就業サポートセンターが行う就労支援事業など、札幌市の行う事業に協力します。スローライフインに一よん実行委員会などの地域団体が行う事業・催事に協力します。これらの事業に協力しつつ、ホール、プールなど公益部門の安定運営に努めます。

各部門の見通しとしては、まだまだコロナ禍以前の規模での利用は期待し難く、特に宴会、会議については、暫くは少人数での利用が続くものと見ています。政府の感染症防止策も緩和されていますが、接客時は引き続きマスク着用を基本とするなど、衛生管理を徹底した上、安心安全な環境の提供に努めます。

令和5年度の各部門の傾向、並びに目標は下記のとおりです。

※ 達成率は、過去5年(コロナ禍以前=H26~H30)平均との比較

部 門	計 画	概 要
プール	利用人数 60,000人	令和4年から受け入れている小学校(24軒小学校)の授業を引き続き行うなど、利用拡大に努めます。 通年営業となり、徐々に利用者も増えていますが、まだまだ会員の欠席率も高く、一般開放の利用者数も伸び悩んでいることから、約72%の達成率を計画としました。

部 門	計 画	概 要
ホール	利用件数 164件 利用区分数 369区分 利用人数 39,800人	<p>収容人数制限も撤廃となり、開催された催事は賑わいを見せてきました。幼稚園や保育園の発表会など、新たな分野へのアプローチを行うなど、利用促進に努めます。</p> <p>しかしながら、コロナ禍前の水準は期待できず、件数で約79%の達成率を計画としました。</p>
文化教室	利用人数 22,800人	<p>年間契約を基本としていることから、感染症の影響が小さい部門となっており、教室数及び受講者数としては、ほぼコロナ禍前の水準を維持しています。</p> <p>開講者、受講者は高齢の方が多いため、休講、欠席も多く見られますが、約98%の達成率を計画としました。</p>
会議・研修	利用件数 2,170件 利用人数 62,900人	<p>ワクチン接種会場としての利用は、縮小、撤退の動きとなる見込みです。宴会の回復が大きく見込めないこともあり、道外セールスを実施するなど、積極的な販売促進に努めます。</p> <p>全体的に小規模、少人数化していることから、人数で約63%の達成率を計画としました。</p>
宿泊	客室稼働率 60.0% 利用人数 17,265人	<p>サッカー協会や高体連などのスポーツ大会関係、高文連やコンクールなどの文科系関係、また、外国人旅行者（インバウンド）の動きが見えてきました。</p> <p>これらの取り込みに努め、人数で約84%の達成率を計画としました。</p>
レストラン	利用人数 63,000人	<p>マスターメニューの他、季節ごとの特別メニュー、保健センターとのタイアップのヘルシーメニューなどの美味しい料理を提供し、集客アップに努めます。</p> <p>ランチタイムは、それなりの賑わいを取り戻し、ディナータイムも少しずつ客足が戻ってきていますが、まだまだ、全館的な人の流れの回復は見込めないため、約64%の達成率を計画としました。</p>
宴会 (法要・婚礼含む)	利用件数 696件 利用人数 26,365人	<p>感染症の影響を最も受けた部門であり、今後の見通しも立ちにくい部門ですが、顧客を中心に予約の動きも出てきました。コロナ禍の影響から供給体制も不十分ではありますが、料理、サービスの提供方法を工夫し、お客様の要望に応えられるように努めます。</p> <p>人数で約45%の達成率を計画としました。</p>